

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 2002-125027

(43) Date of publication of application : 26.04.2002

(51) Int.Cl.

H04M 1/11  
G06F 15/02  
H04M 1/02

(21) Application number : 2000-312199

(71) Applicant : ISHIZAKI SHIZAI KK

(22) Date of filing : 12.10.2000

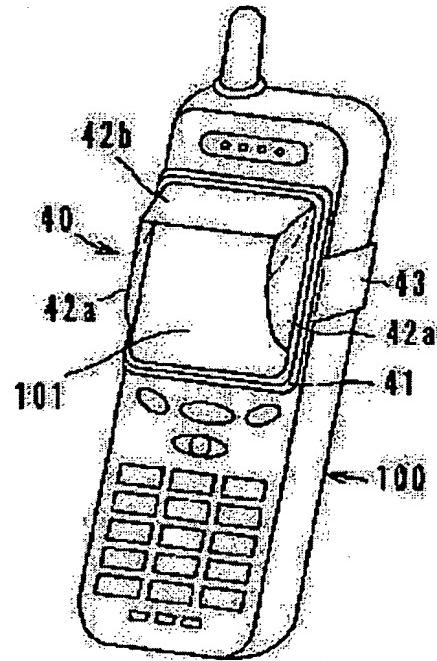
(72) Inventor : ISHIZAKI AKIRA

## (54) VISOR AND PROTECTIVE CASE FOR PORTABLE TELEPHONES

### (57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a visor and a protective case for portable telephones which prevent the difficulty in seeing a display screen due to incidence of outside lights or mask the screen from other persons.

**SOLUTION:** The visor for portable telephones comprises foldable small doors 42a, 42a, 42b at three sides and a pair of arms 43 to be wound around the frame of the portable telephone 100. The small doors 42a, 42a, 42b prevent the difficulty in seeing a display screen 101 of the portable telephone 100 due to incidence of outside lights and also the invasion of privacy, as other persons peep into the display screen 101.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 10.11.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2002-125027  
(P2002-125027A)

(43)公開日 平成14年4月26日(2002.4.26)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テ-マコ-ト(参考)
H 04 M 1/11		H 04 M 1/11	Z 5 B 0 1 9
G 06 F 15/02	3 1 5	G 06 F 15/02	3 1 5 B 5 K 0 2 3
H 04 M 1/02		H 04 M 1/02	C

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願2000-312199(P2000-312199)

(22)出願日 平成12年10月12日(2000.10.12)

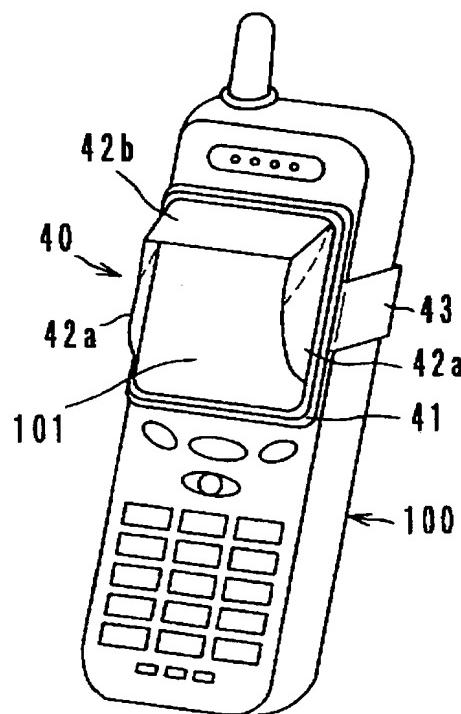
(71)出願人 391022234  
石崎資材株式会社  
大阪府柏原市旭ヶ丘3丁目15-43  
(72)発明者 石崎 昭  
奈良県香芝市関屋北3丁目6-12  
(74)代理人 100091432  
弁理士 森下 武一  
Fターム(参考) 5B019 BA02 EA10  
5K023 AA07 BB02 DD06 EE02 HH07  
LL06 MM03 PP02 PP12

(54)【発明の名称】携帯電話用バイザー及び携帯電話用保護ケース

(57)【要約】

【課題】外光の入射による表示画面の見づらさを防止できたり、表示画面を他人の目から隠してしまうことのできる携帯電話用バイザー及び携帯電話用保護ケースを得る。

【解決手段】三方に折り畳み自在な小扉42a, 42a, 42bを備えると共に、携帯電話100の筐体に巻き付けるための一対の腕部43を備えた携帯電話用バイザー。小扉42a, 42a, 42bは外光が入射して携帯電話100の表示画面101が見づらくなることを防止でき、かつ、他人が表示画面101を覗き込んでプライバシーが侵されることを防止する。



BEST AVAILABLE COPY

**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 携帯電話の筐体に固定可能又は着脱可能であって、携帯電話の表示画面を使用者本人以外の者に対して目隠しとなる壁部を備えたことを特徴とする携帯電話用バイザー。

【請求項2】 携帯電話の筐体に固定可能又は着脱可能であって、携帯電話の表示画面の周囲を囲む壁部を備えたことを特徴とする携帯電話用バイザー。

【請求項3】 携帯電話の筐体に着脱可能な部分が、該筐体の表裏面に弾性的に圧着する構造からなることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の携帯電話用バイザー。

【請求項4】 携帯電話の筐体に固定可能な部分が、該筐体の表面へ接着する接着剤を備えていることを特徴とする請求項1又は請求項2記載の携帯電話用バイザー。

【請求項5】 前記壁部は折り畳み可能な複数の小扉からなり、該小扉は折り畳まれた状態で前記表示部分の少なくとも一部分を覆うことを特徴とする請求項1、請求項2、請求項3又は請求項4記載の携帯電話用バイザー。

【請求項6】 携帯電話の筐体に着脱可能な保護ケースであって、携帯電話の表示画面を使用者本人以外の者に対して目隠しとなる壁部を備えたことを特徴とする携帯電話用保護ケース。

【請求項7】 携帯電話の筐体に着脱可能な保護ケースであって、携帯電話の表示画面の周囲を囲む壁部を備えたことを特徴とする携帯電話用保護ケース。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話用バイザー及び携帯電話用保護ケース、特に、携帯電話の表示画面を外光から遮蔽したり、他人の目から隠すためのバイザー及びこのような機能を備えた携帯電話用保護ケースに関する。

**【0002】**

【発明の背景と課題】携帯型の電話機が広く普及しており、特に近年では、画面に種々の情報が表示されるようになり、画面を見ながら操作することが多くなっている。使用する場所は明るい場所であったり、多数の人のいるところであったりする。

【0003】しかしながら、明るい場所では画面が見づらく、人のいるところでは画面が覗かれているのではないかとプライバシーが気になる。

【0004】そこで、本発明の目的は、外光の入射による画面の見づらさを防止できたり、画面を他人の目から隠してしまうことのできる携帯電話用バイザー及び携帯電話用保護ケースを提供することにある。

**【0005】**

【発明の構成、作用及び効果】以上の目的を達成するため、本発明に係る第1の携帯電話用バイザーは、携帯電

話の筐体に固定可能又は着脱可能であって、携帯電話の表示画面を使用者本人以外の者に対して目隠しとなる壁部を備えたことを特徴とする。

【0006】また、本発明に係る第2の携帯電話用バイザーは、携帯電話の筐体に固定可能又は着脱可能であって、携帯電話の表示画面の周囲を囲む壁部を備えたことを特徴とする。

【0007】以上の構成からなる第1及び第2の携帯電話用バイザーにあっては、壁部の存在によって、人混みの中でも他人の目を気にすることなく表示画面を使用することができ、プライバシーを守ることができ、あるいは、外光の入射を排除して画面が見にくくなることを防止できる。

【0008】ところで、携帯電話は耳につけることが必要であり、前記壁部がその障害になることは排除しなければならない。そのためには、バイザー自体が携帯電話の筐体に対して着脱可能な構成にするか、固定方式であれば壁部を折り畳み可能な複数の小扉にて構成すればよい。なお、壁部が低くて又は柔らかくて使用にそれ程障害にならなければ、固定方式であっても必ずしも折り畳み可能としなくてもよい。

【0009】また、本発明に係る第1の携帯電話用保護ケースは、携帯電話の筐体に着脱可能な保護ケースであって、携帯電話の表示画面を使用者本人以外の者に対して目隠しとなる壁部を備えたことを特徴とする。さらに、本発明に係る第2の携帯電話用保護ケースは、携帯電話の筐体に着脱可能な保護ケースであって、携帯電話の表示画面の周囲を囲む壁部を備えたことを特徴とする。

【0010】このような第1及び第2の携帯電話用保護ケースにあっても、プライバシーの保護及び外光による画面の見にくさを防止することができる。

**【0011】**

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る携帯電話用バイザー及び携帯電話用保護ケースの実施形態について、添付図面を参照して説明する。

【0012】(第1実施形態、図1～3参照)図1、2に示すように、本発明の第1実施形態である携帯電話用バイザー10は、台座部11と、四方を囲む壁部12と、2本の腕部13、13とから構成されている。このバイザー10はプラスチックにて一体的に成形したものである。

【0013】図3はこのバイザー10を携帯電話100に取り付けた状態を示す。台座部11を電話100の筐体の表面に当てて壁部12で表示画面101を囲むようにし、腕部13、13を筐体の裏面側に弾性的に圧接させる。即ち、台座部11と腕部13、13とで筐体を弾性的に圧着することになる。

【0014】以上の構成からなるバイザー10を用いれば、壁部12によって外光が画面に入射することを極力

排除でき、照り返しによって画面が見にくくなることを防止できる。また、他人から画面を覗かれることも防止できる。なお、携帯電話を使用する（耳に当てる）際にはバイザー10を携帯電話100から取り外せばよく、ワンタッチで簡単に取り外すことができ、装着も携帯電話100の側部からはめ込むだけで容易に行うことができる。勿論、壁部12が邪魔にならない程度の高さであれば、装着したまま使用してもよい。

【0015】なお、壁部12は必ずしも四方を囲む必要はなく、使用者の視線方向に位置する下辺部分は切り欠かれていてもよい。また、下辺部分のみ低く形成されていてもよい。この点は、以下に説明する実施形態にあっても同様である。

【0016】（第2実施形態、図4参照）図4（A）、（B）に示すように、本発明の第2実施形態である携帯電話用バイザー20は、台座部21と、四方を囲む壁部22と、保持部23とから構成されている。このバイザー20はプラスチックにて一体的に成形したものであり、保持部23と台座部21との連結部分は薄い肉厚の折り曲げ容易なヒンジ部24とされている。また、保持部23の先端には台座部21の端面に係合可能な爪部25が形成されている。

【0017】このバイザー20は台座部21を携帯電話の筐体の表面に当てて壁部22で表示画面を囲むようにし、保持部23を筐体の裏側に回して爪部25を台座部21に係合させる。これにて、台座部21と保持部23とで筐体を弾性的に挟み込むことになる。また、爪部25は外方に圧力を加えることで簡単に台座部21との係合を解除することができる。

【0018】以上の構成からなるバイザー20の作用効果は前記第1実施形態と同様であり、携帯電話に対する着脱も容易である。

【0019】（第3実施形態、図5～7参照）図5、6に示すように、本発明の第3実施形態である携帯電話用バイザー30は、台座部31と、四方を囲む壁部32と、バンド33とから構成されている。バンド33は合成ゴムや伸縮性のある帶にて成形され、両端部を台座部31に固着したものである。台座部31と壁部32はプラスチックにて一体的に成形されている。

【0020】図7はこのバイザー30を携帯電話100に取り付けた状態を示す。台座部31を電話100の筐体の表面に当てて壁部32で表示画面101を囲むようになる。このとき、バンド33が筐体の裏側に回り込み、バイザー30が携帯電話100に弾性的に取り付けられる。

【0021】以上の構成からなるバイザー30の作用効果は前記第1実施形態と同様であり、携帯電話100に対する着脱も容易である。

【0022】（第4実施形態、図8～10参照）図8、9に示すように、本発明の第4実施形態である携帯電話

用バイザー40は、台座部41と、壁部を構成する小扉42a、42a、42bと、腕部43、43とから構成されている。台座部41はプラスチックや金属など比較的硬質の材料にて構成し、小扉42a、42a、42bは合成ゴムあるいはプラスチックなどで一体的に成形されている。小扉42a、42a、42bはレザーで製作することもできる。また、腕部43、43はその根元部分で折り曲げ自在とされている。

【0023】小扉42a、42a、42bは、図9に示す稜線部分a、bで折り曲げ自在とされ、小扉42bを押し込むことで閉じ、いずれかの小扉を外方に開けば他の小扉も運動して開くようになっている。

【0024】図10はこのバイザー40を携帯電話100に取り付けた状態を示す。台座部41を電話100の表示画面101を囲むようセットし、腕部43、43を筐体の裏面側に折り曲げて先端部を係合させることにより、バイザー40が携帯電話100に取り付けられる。腕部43、43の係合は図示しない面ファスナを用いたり、ホック、ボタン等種々の手段を用いることができる。

【0025】以上の構成からなるバイザー40において、画面を見るとときには小扉42a、42a、42bを開き（図10参照）、電話としての使用時には小扉を閉じる。従って、バイザー40は電話100に対して必ずしも着脱可能でなくてもよく、腕部43、43を省略して台座部41を筐体表面に貼り付けるようにしてもよい。また、バイザー40の作用効果は前記第1実施形態と基本的には同様である。

【0026】（第5実施形態、図11参照）図11（A）、（B）に示すように、本発明の第5実施形態である携帯電話用バイザー50は、台座部51と、壁部を構成する小扉52a、52a、52bとから構成されている。三つの小扉はそれぞれ台座部51の3辺にヒンジ53によって開閉自在に取り付けられている。開いた状態を図11（A）に示し、閉じた状態を図11（B）に示す。ヒンジ53は台座部51に対して各小扉52a、52a、52bを適度な締め付け力で結合し、開閉自在でかつ手を離した時点の開閉状態が保持されるようになっている。従って、携帯電話の使用者は、小扉52a、52a、52bを適度な角度に開いた状態で表示画面を見ることができる。通話時には邪魔にならないよう小扉を閉じておけばよい。

【0027】このバイザー50は台座部51を携帯電話の筐体の表面に直接貼着してもよいし、前記各実施形態に示したような腕部、バンド等を付けてもよい。

【0028】（第5実施形態の変形例、図12参照）図12は前記第5実施形態の変形例であり、図11と同じ部材には同じ符号が付されている。このバイザー50では小扉52bに摘み54を設けた。小扉52bの上に重ねて小扉52a、52aを閉じれば、摘み54を摘んで

小扉52bを開放すれば、他の小扉52a、52aも連動して開放される。

【0029】また、小扉52bには、該小扉52bを所定の角度まで開くためのばね部材と該ばね部材の作動をロックしておくロック部材とを付設してもよい。即ち、ロックを解除することでばね部材が小扉52bを所定の角度まで開き、これと連動して小扉52a、52aも所定の角度まで開かれる。さらに、小扉52bが閉じられるとばね部材が自動的にロックされることになる。

【0030】(第6実施形態、図13参照)図13に示すように、本発明の第6実施形態である携帯電話用バイザー60は、台座部61の4辺に壁部62a、62a、62b、62cを設けたもので、合成ゴムあるいはプラスチックにて一体的に成形されている。壁部62bは若干正面を覆うように延長されている。また、壁部62cは他の壁部よりも低く形成されている。壁部62cを低くしたのは、使用者が表示画面を見る際の視線をあまり遮らないようにするためである。

【0031】このバイザー60に対しては、図13には図示していないが、前記各実施形態に示したような腕部、バンド等が付けられる。また、その作用効果は前記第1実施形態で説明したのと同様である。

【0032】(第7実施形態、図14参照)図14に示すように、本発明の第7実施形態である携帯電話用保護ケース70は、携帯電話の上部からはめ込む方式で取り付けるようにしたもので、正面部71と両側面部72と上面部73とで構成され、正面部71には表示画面に相当する面積の窓部74が形成されている。また、75はマイク用の穴、76、77はアンテナ用又はストラップ用の開口部である。このようなケース70はプラスチックで一体的に成形される。

【0033】このケース70に関しては、窓部74に図11、12あるいは図13に示したバイザー50、60が取り付けられる。図5、6又は図8、9に示したバイザー30、40(但し、バンド33、腕部43は不要)を取り付けてもよい。

【0034】(第8実施形態、図15参照)図15に示すように、本発明の第8実施形態である携帯電話用保護ケース80は、携帯電話を上部から挿入し全体的に収容するようにしたもので、上面にはホック付きの蓋部81を備えている。蓋部81にはアンテナ用又はストラップ用の切欠き81a、81bが形成されている。このようなケース80はプラスチックフィルム、レザー、布等で構成される。但し、窓部82の周辺は硬質材料にて構成する必要がある。

【0035】また、正面部には表示画面に相当する面積の第1の窓部82及び操作ボタン類を操作可能なように第2の窓部83が形成され、さらに、マイク用の穴84が形成されている。第2の窓部83には透明で柔軟なプラスチックフィルムが貼着されていてもよい。また、第

1の窓部82には図11、12あるいは図13に示したバイザー50、60が取り付けられる。図5、6又は図8、9に示したバイザー30、40(但し、バンド33、腕部43は不要)を取り付けてもよい。

【0036】(他の実施形態)なお、本発明に係る携帯電話用バイザー及び携帯電話用保護ケースは、前記実施形態に限定するものではなく、その要旨の範囲内で種々に変更することができる。

【0037】特に、壁部や小扉の形状、開閉構造、あるいは保護ケースの基本的な構造は任意である。また、バイザーは携帯電話の筐体に直接的にヒンジ部材等を介して取り付けてもよい。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施形態である携帯電話用バイザーを示す正面図。

【図2】第1実施形態である携帯電話用バイザーを示す斜視図。

【図3】第1実施形態である携帯電話用バイザーの使用状態を示す斜視図。

【図4】第2実施形態である携帯電話用バイザーを示し、(A)は側面図、(B)は底面図。

【図5】第3実施形態である携帯電話用バイザーを示す正面図。

【図6】第3実施形態である携帯電話用バイザーを示す斜視図。

【図7】第3実施形態である携帯電話用バイザーの使用状態を示す斜視図。

【図8】第4実施形態である携帯電話用バイザーを示す斜視図。

【図9】第4実施形態である携帯電話用バイザーを示す正面図。

【図10】第4実施形態である携帯電話用バイザーの使用状態を示す斜視図。

【図11】第5実施形態である携帯電話用バイザーを示し、(A)は小扉を開けた状態の正面図、(B)は小扉を閉じた状態の正面図。

【図12】第5実施形態の変形例である携帯電話用バイザーを示す正面図。

【図13】第6実施形態である携帯電話用バイザーを示す斜視図。

【図14】第7実施形態である携帯電話用保護ケースを示す斜視図。

【図15】第8実施形態である携帯電話用保護ケースを示す斜視図。

#### 【符号の説明】

10, 20, 30, 40, 50, 60…携帯電話用バイザー

11, 21, 31, 41, 51, 61, …台座部

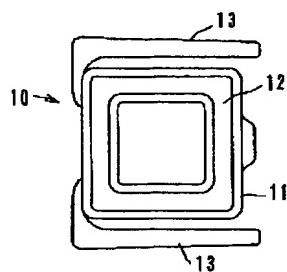
12, 22, 32, 62a, 62b, 62c…壁部

13, 43…腕部

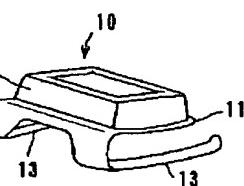
23…保持部  
33…バンド  
42a, 42b, 52a, 52b…小扉

53…ヒンジ  
70, 80…携帯電話用保護ケース

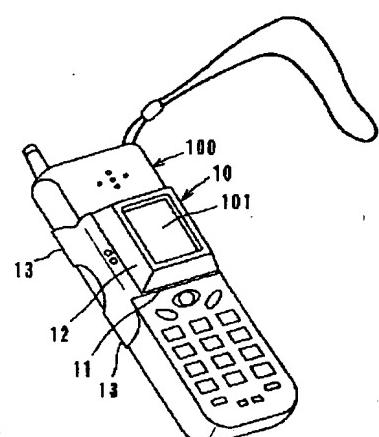
【図1】



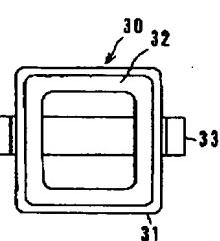
【図2】



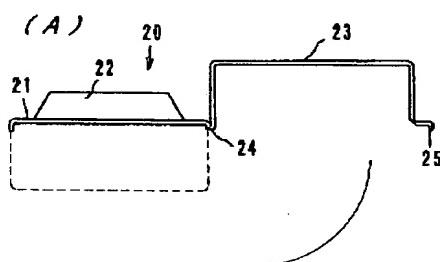
【図3】



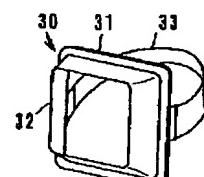
【図5】



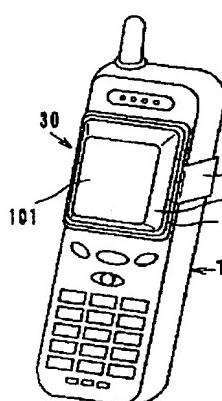
【図4】



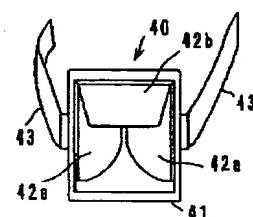
【図6】



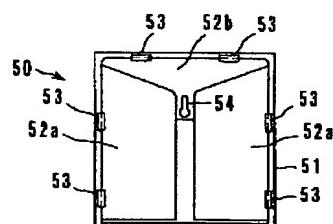
【図7】



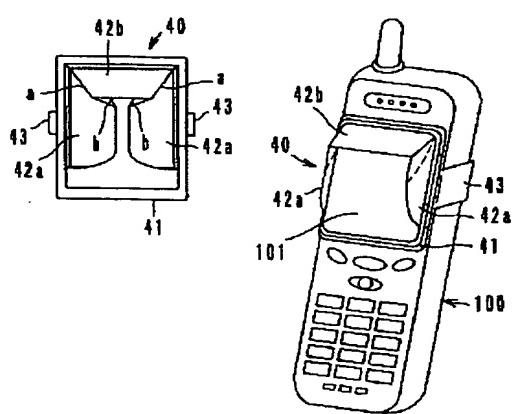
【図8】



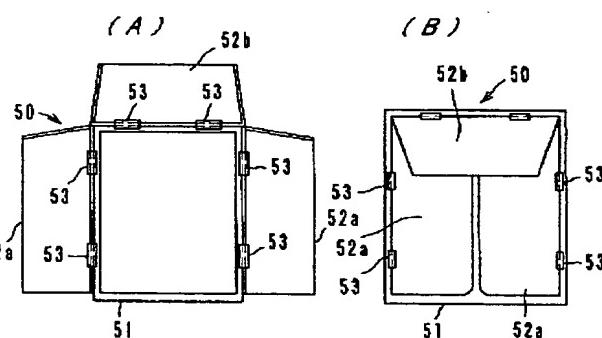
【図12】



【図9】



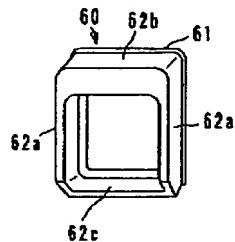
【図10】



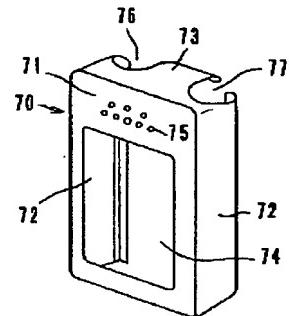
【図11】

BEST AVAILABLE COPY

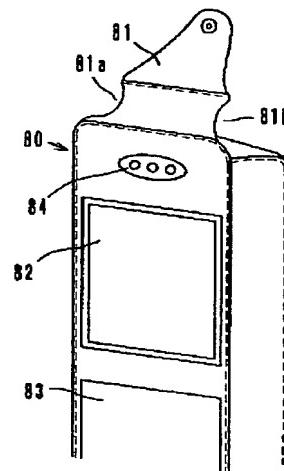
【図13】



【図14】



【図15】



BEST AVAILABLE COPY